



**災害に強い
まちづくりについて**
工藤 俱二雄

温暖化の影響が出てきているのか、近年地球規模で災害が発生している。当市も昨年の暴風雪での大停電を体験し大変不便な時間を過ごしたが、逆に得るものもたくさんあり、この教訓を生かすべく、北海道地域防災計画や当市の地域防災計画の活用について質問した。

また防災は、市民も被害者意識を持たず「自助」「公助」「共助」の精神で、自分の身は自分で守り、避難訓練も必要だが、防災に対する知識や災害訓練も必要で、防災計画も絵に描いた餅とならないようにいただいた。



**登別市における
まちづくりについて**
山口 賢治

市長は市民との意見交換を基に、まちづくりの市長私案を打ち出した。市長として私案を打ち出すのは当然のことである。その中から、平成8年に策定された長期総合計画にうたわれている、登別市のあるべき姿に向って、市民の代表である議員との議論を経て、財政状況を見定め、実施計画を策定すべきである。そこで、長期総合計画や各地区土地利用計画との整合性に対し見解をたじた。また市長私案については議員や市民提案、計画立案済み、そして市長の独自案など区分して示すべきと提言した。



**魅力あるまちづくり
について名物を提案**
一 瓶 秀 幸

今後少子・高齢化と人口減が予想され、市内の生産年齢人口が減ってくる中、子育てや老後の支援・環境を充実させるため財源が必要であり、魅力あるまちづくりを今やらなければ当市は衰退していくとの思いから、商店街の活性化、観光客誘客活動、登別名物・グルメの取り組みについていただいた。最後に「オール登別による地域の活性化」が期待できる、魅力あるまちづくりの新たなしなけとして、登別名物を『激辛（地獄）フード!』としてはどうかと提案した。



補正予算審査 12月17日に審査を行いました

佐々木 久美子
児童デイサービスセンターのぞみ園の民間委託については、保護者への説明会が何度か行われたということだが、保護者の方の意見で特に多かった内容は、
④ 民間委託することで先生が替わることにによる不安を感じているということが一番多かった。

松山 哲男
市宮千代の台団地に隣接する道有地取得に関して、遊休地とならないように使用目的をたじた。
④ 取得する道有地に団地を建て替え、団地跡地に栄町保育所の移転を検討し、3月までに保育所民営化構想の基本方針を策定し、6月をめどに事業者を選定したい。

石山 正志
「下水道事業費」の委託費900万円増の理由について説明を求めた。
④ 若山町地区の雨水を1つの幹線排水に集める予定を3つに分けたため、諸案件の変更で実施設計の増額が必要となった。この地区における浸水対策は、来年度から3年かけ面整備を予定している。

渡辺 勉
クリニックセンター運営管理経費について、通常の修繕料を上回り、補正しなければならぬ理由は何か。
④ 通常の修繕料のほかに、シャッター、エアコンなど突発的な修理の必要性が生じたために今回補正予算を計上した。

**登別市・白老町議会
議員研修会が
開催されました**
平成25年
11月20日



本年の研修会のテーマは、「災害対応と避難所運営について」で、災害発生時から避難所を開設し運営を行うという趣旨での体験プログラムを経験した。災害が発生してから、避難所で受付をどこにするのか、障がい者・ひきこもり・雨で濡れた方、犬などのペットを連れての避難、ストーブも限られていたり、毛布が到着したり、さまざまな状況に対し模擬体験をした。
また「防災・減災」の基本は、発生の災害をよく知ること、自らを取り巻く環境をよく知ること、それらの知識を生かすことを継続し実践していくことが大事で、「災害が発生したときや、災害のあらゆる時間軸において命を守る」ことが大切だと学んだ。

平成25年度議会フォーラムを終えて

10月16日、登別市民会館で、今後の議員・議会のあるべき姿や議員定数等について、北海道大学名誉教授神原勝氏による基調講演や、これまでの議員定数等に関し協議した事項を題材にし、市民との意見交換を中心とした議会フォーラムを開催しました。その概要を報告します。

基調講演「あるべき議員・議会像から考える議員定数」から

講演では、

- ①この30年間、定数削減の流れが続いているが、代表機関としての議会の限界
- ②議員定数の削減を求める理由は、財政のひっ迫、近隣や同規模の自治体との横並び、人口減少、市民の代表として仕事をしているように見えないなどの要因だが、定数を判断する上で、合理性があるのか
- ③あるべき議員・議会像を確立して改革を確実に継続することや、議会費全体で議会費のあり方の検討、現行定数の評価を考える必要性
- ④市民と議員を納得させる改革案の検討を行う議会改革諮問会議の設置や、議員候補者を増やすための充実したセミナーを開催すべき

などといった問題提起がなされました。

講演からは、議員定数と報酬などについての論理的な考え方や今後の議員・議会のあり方などについて、多くの示唆がありました。



▲神原勝氏の基調講演の様子

市民意見から

市民からは、「市民と議会をどう結ぶか」、「議員活動が見えない」、「議員・議会の情報などと共に、市民の意見を聞いてほしい」などと、多くの意見と提起をいただきました。今後、これらに目を向けた取り組みを進めて行こうと考えます。

また、議会フォーラムへの参加者の減少傾向などからも、今後の議会フォーラムのあり方も検討していくことが必要ですが、登別市議会基本条例に掲げている議会の活動原則における「市民との議論の場」および委員会活動での「市民との意見交換の場」として、どうあるべきかについても、市民の皆さんとより一層の意見交換が大切と再認識した議会フォーラムでした。

なお、本フォーラムの報告書は、登別市議会ホームページに掲載しています。

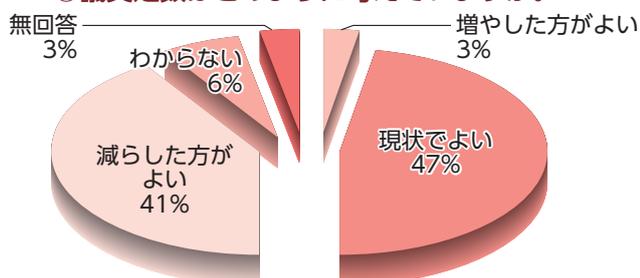


▲意見交換会の様子

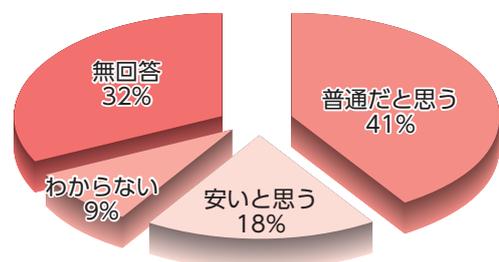
アンケート集計結果から

(参加者39名、アンケート回答数34名)

○議員定数はどのように考えていますか。



○議員報酬についてどのように考えていますか。



委員会だより



総務・教育委員会

11月に福島県郡山市・南相馬市、宮城県大崎市・白石市を視察し、読書推進の取り組み・高度情報化計画、行財政改革、防災について・スポーツ振興のための団体の連携のあり方、定住自立圏構想などをテーマとして調査しましたが、その先進的な取り組みを今後市政に反映できるような提言していきます。

また幌別中学校において、いじめ問題についての教育研究会が開催され、公開授業の参観、取り組みの発表や教師対象の研修があり視察させていただきました。が、市内小中学校全体で一丸となった取り組みに、今後さらなる子どものための教育環境づくりが期待されます。

議会運営委員会

10月に開催した議会フォーラムは、議員定数等に係る内容とし、神原勝先生の基調講演と、これまでに協議を重ねた定数等の資料を配布し、市民との意見交換会を行いました。講演演題の「あるべき議員・議会像から考える議員定数」では、議員・議会活動のルール化や市民の厳しい目をもった議員・議会活動の評価の必要性など、多くの示唆を得ました。

また市民の意見からは、議員・議会が十分に見えていないことから「見える化」への取り組みが大切だと痛感しました。

今後、各会派の定数等の考えを提示し、市民との意見交換会を経て、議会としての考えをまとめ、3月定例会に条例提案する予定です。

観光・経済委員会



▲東大阪市視察の様子

委員会は所管事務調査案件の審査、調査・研究で16回開催しており、12月18日には議会サポーター2名を迎え、意見交換会を実施しました。

委員会の活動計画にある、経済活性化に向けた「登別市中小企業地域経済振興基本条例」に関連し、先進地である大阪府東大阪市を視察し、ものづくり産業を守るさまざまな取り組みを学びました。

また下水道事業の地方公営企業法適用についても、先進地である兵庫県加東市を視察し、企業会計移行に関するノウハウを学んできたので、今後は運用などについて担当部局と調査研究して行きます。

今後、市内企業との意見交換会を平成26年に開催する予定です。

生活・福祉委員会

11月にはのぼりべつ男女共同参画懇話会およびプラタナスとの意見交換会を実施。男女共同参画のさらなる必要性と理解を深めました。

また釧路市を視察し、生活保護受給者の居場所をつくり、受給者が誇りの持てる環境を整備する「自立支援プログラム」の取り組みを調査。受給者のエンパワメントを評価し、援助者とのずれを見つめ「人を支える生活保護」への転換を図ることが福祉事務所の役割とされておりました。さらに生活保護を受給する以前の生活困窮者に対する「釧路市生活相談支援センター」を設ける先駆的な取り組みも行っており、今後これらを反映して活動を行ってまいります。



▲意見交換会の様子